

RAINBOW

No. 102

松江市教育委員会学校教育課 松江市学校図書館支援センター TEL:55-5073 FAX:55-5251
http://www1.city.matsue.shimane.jp/kyouiku/gakkou/

令和5年、新たな年がスタートしました。
今年、子どもたちはどんな本に出会うのでしょうか。物語の世界を楽しみ、知識や考えを深めたり、広げられたりするような本との出会いをより一層支えていきたいですね。



R4年度 学校図書館活用研修を行いました 10月28日(金) 15:00~16:30

学校図書館活用教育の現状について理解するとともに、学校図書館担当者の役割や授業実践について知り、学校図書館活用への理解や授業実践意欲の向上を図り、各校における図書館活用教育の充実に資することを目的とした研修を行いました。

市立小学校と市立義務教育学校に勤務する教員と学校司書の64名が参加し、研鑽を積みました。

研修内容

講義 新学習指導要領がめざす「学力」を育てる学校図書館活用教育
～GIGA スクール時代の教育実践と「体系表」の活用～

講師 帝京大学 教育学部 鎌田 和宏 教授

「新学習指導要領がめざす『学力』とは」「新学習指導要領がめざす『学力』と読書・学校図書館」「松江市の学校図書館活用教育の要諦は学び方指導體系表」「GIGAスクール時代の教育実践と学校図書館」の4つの項目について話していただきました。

学習指導要領における学力の構造や学習の基盤となる3つの資質・能力の育成が学校図書館と深くかかわっていることや、学校図書館の機能を活用し児童生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実させることが大切だということを伝えていただきました。

また、松江市で作成している「学び方指導體系表」の活用について、図書館担当者だけでなく授業者が情報リテラシーの育成を意識できるように、各学年の年間指導計画に反映させ、点検評価まで行うことなど具体的な事例をあげて説明してくださいました。

今年度はオンライン開催でしたが、昨年度に引き続き鎌田教授のお話を聞くことができました。研修を受け、学校図書館活用教育の更なる推進に向けて、機運を高める機会となりました。



鎌田教授の講義の様子（オンラインにて）

参加者の感想

- ・ ICT との連携や情報教育の位置づけ、各学年の年間指導計画に図書館活用教育を位置づけること、そして学習センターや情報センターとして確実な情報源・資料を提供できるようにすることなどを学ぶことができた。今後は、「学び方指導體系表」の活用を先生方に働きかけたり、WEBサイトのリンク集を作成したりして情報提供していきたい。また、図書館教育と情報教育との校内組織の位置づけを検討し、連携を強めていきたいと思った。
- ・ 図書館活用だけの年間指導計画ではなく、各学年、各教科等の年間指導計画を作ることが活用教育の推進にとって効果的だということが理解できた。各教科等と図書館活用を結び付けた一覧の計画を作成して実践しやすくしたいと思った。

読書支援に係る学校図書館担当者研修を行いました

令和4年12月7日(水) 松江市鹿島支所

学校図書館の力を生かした読書支援について、図書館担当者の見識の向上を目指し、読書センター機能を充実させることを目的とした研修を行いました。

学校司書46名が参加し、スキルアップを図りました。



研修会の様子

研修内容

研修テーマ 「子どもたちの読書生活を拓く仕掛けと仕組み」

実践発表

①「主体的な読書の種まき」

発表者 竹中 庸子 学校司書 (松江市立津田小学校)

子どもたちの読書について、課題点を把握し改善に向けてどのような取組を行ったのかの事例を伝えていただきました。併せて、困り感をもった子どもたちへの学校図書館支援について、参考になる話もしていただきました。

| カウンターやフロアで | 図書の時間で | 授業の中で | イベントで | 実地で | ハリアフリー | その他 |
|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--|------------------------|---|--|
| ・予約 ・リクエスト ・レファレンス | 読み聞かせ ・アニメーション ・特集読書 ・発行読書 | ブックトーク ・資料提供 ・ヨミール | ・読書会 ・卒業生や先輩 委員のおすす めの本紹介 ・読書レゾ ・アフタート ・ドブドブ16 | ・家族連れあい 読書 ・読書郵便 | ・デザイン ・リーダーシ ・トラック等 の補助具 ・ペーパー ・読書体験 ・読書の授業 コーナー | ・図書棚がよ ・読書 ・展示、提示 コーナー ・ペア読書 ・100冊で わかる読書 ・読書の授業 コーナー ・読書委員と のつながり |

竹中学校司書の実践発表スライドの一部

②「読書の入門期を支える学校図書館」

発表者 門脇 久美子 学校司書 (松江市立乃木小学校)

読書生活を拓く上で大切な読書習慣の定着に向け、低学年で取り組む楽しい読書活動の事例報告がありました。またリニューアルした図書館で楽しむ児童の様子や、司書教諭と連携した職員研修についても紹介され、学校図書館の活用推進につながる内容についてお話いただきました。



門脇学校司書の実践発表スライドの一部

③「ちょこっとずつの実践」

発表者 青山 亜希子 学校司書 (松江市立第二中学校)

子どもたちの読書生活を拓くために、学校司書の業務や図書館の利活用状況を振り返ってみた時に浮かんできた課題について、取り組んでいる改善事例を紹介していただきました。中学生を引き付ける選書、教員や生徒会との連携、本と出会う工夫など、いろいろな視点からのお話でした。



青山学校司書の実践発表スライドの一部

3人の方の実践発表で共通していたのは、学校司書や司書教諭が管理職や担任、授業者、事務職員などと連携を取り、学校全体で子どもたちの読書を支えているということでした。

学校のチーム力を生かし、それぞれの教職員がそれぞれの役割を果たすことが、子どもたちの読書生活を充実させる上で重要であることを再認識できた研修となりました。

参加者からの感想

- ・いろいろな場面で子どもと本をつなげるために、多様な蔵書構築をする大切さを再認識した。子どもの興味関心や社会の話題にアンテナを張り、好奇心を喚起させるような資料を揃えていきたいと思った。
- ・どの学校とも、読まない子や読めない子に少しでも本の楽しさを感じてもらうために、多くの工夫をしていることがとても勉強になった。まずは、保健室との連携(保健室図書)やバリアフリー図書の充実など、自分できることから取り入れていきたいと思った。
- ・3つの学校はどれも、子どもたち一人一人に目を向けながらも、学校で一体となって目標に向かって取り組んでいると感じた。図書館部や図書館運営委員会といった組織がしっかりしていて、学校の求めるものが具体的に示してあると、仕事がしやすいと思った。併せて、教職員へ図書館の取組を伝えていくということも参考になった。

学校図書館活用教育に係るブロック別研修を行いました

小中一貫教育の視点から学校図書館活用教育を行うために、中学校区（5～8校）を1ブロックとし、ブロックごとに2種類（①、②）の研修をしています。

研修①は、会場校の図書館見学や図書館運営についての情報交換、学習支援や読書支援の課題解決について、話し合いを行いました。

研修②は、学校図書館を活用した授業研究を行いました。

今号では、11月7日～12月16日に行った、7ブロックの研修①②の様子をお伝えします。

研修①

B 2 ブロック

（本庄水辺の学園・海と朝日の美保関学園・八東学園）

- 会場校 八東学園
- 日にち 11月17日（木）
- 内容 ①本の紹介の仕方（展示方法）
②図書館だよりについて

図書館だよりを中心に資料を持ち寄り、各校の取組状況を紹介し合った。課題点について、意見交換をすることで改善に向けてのヒントを得ることができた。



展示による本の紹介（八東学園）

C 2 ブロック（宍道みずうみ学園・玉湯学園）

- 会場校 宍道中学校
- 日にち 12月2日（金）
- 内容 ①各学校の図書館活用の取組や授業実践の紹介
②授業支援や読書支援の課題と改善について

情報交換では、小学校で身に付けたスキルを中学校でどのように生かすか、どのように生かされているかを知ることができた。



情報交換の様子

研修②

A 1 ブロック（千鳥の杜学園・しまね潮風学園）

- 会場校 内中原小学校
- 日にち 11月30日（水）
- 内容 校内研修についての実践報告
- 発表者 司書教諭
- 会の流れ
 - ・校内研修の紹介
思考ツールの使い方と授業での活用
思考ツール活用の教材研究
 - ・実践報告に係る意見交換

校内研修を行うことで、図書館活用教育を学校全体の力にすることができる。「思考ツール」が窓口になって教職員の活用教育の輪が広がった。



実践報告の様子



お気に入りのお話をグループで紹介している様子

B 1 ブロック（嵩の杜学園）

- 会場校 持田小学校
- 日にち 11月25日（金）
- 学年 2年生
- 教科 国語科
- 単元 読んだかんそうをつたえ合おう「お手紙」
- 授業者 学級担任（司書教諭）、学校司書
- 単元目標 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。
- 本時の目標 物語の好きなところを紹介し合うことで、友達と感想を共有することができる。
- 本時の流れ
 - ▶前時までには、シリーズのがまくんとかえるくんの物語から、「お気に入りのお話」を選び、好きなところをカードにまとめている。
 - ▶本時では、
 - ①お気に入りのお話をグループで紹介し合う。
 - ②全体で共有する。（全体に向けて発表、質問や感想）
 - ▶振り返り
 - ▶本時以降は、授業者が「お手紙」の同作者の本を紹介し、さらに読みたいという気持ちの意欲付けをする。
- 本時に関わる情報リテラシー 読んだ感想を伝え合う

C 1 ブロック (まつえ天神川学園・まつえ湖南学園)

- 会場校 第三中学校
- 日にち 11月9日(水)
- 学年 2年生
- 教科 国語科
- 単元 魅力を効果的に伝えよう 鑑賞文を書く
(授業構想について意見交換)
- 授業者 教科担当(司書教諭)
- 単元の目標 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。
- 本時の目標 作品について、自分の見方・感じ方を整理して、鑑賞文で伝えたいことを明確にすることができる。
- 本時の流れ
 - ▷自分が選んだ作品について、観点ごとに気づいたことや想像したことを付箋に書き、ワークシートに貼る。
 - ▷同じ作品を選んだ人と意見交換をする。
 - ▷作品の魅力を一文でワークシートに書く。
 - ▶本時以降は、鑑賞文を200字程度で書き、グループで読み合う。
- 本時に関わる情報リテラシー 体験や出来事を整理し、伝えたいことを明確にする。
- 図書館担当者の動き 学校司書・使用する作品の提供(美術科教員と相談)



授業構想についての協議の様子

D 1 ブロック (津田古志原きぼう学園・やくも意宇学園)

- 会場校 八雲中学校
- 日にち 11月7日(月)
- 学年 1年生
- 教科 総合的な学習の時間
- 単元 森林学習
- 授業者 学級担任
- 単元の目標 森林学習の体験から森林についての課題を見つけ、調べたことや自分が考えたことをプレゼンテーションにまとめることができる。
- 本時の目標 情報カードを用いて、課題の解決に向けて図書資料を活用することができる。
- 本時の流れ
 - ▶本時までに行った森林学習ガイダンスや森林体験学習をもとに、各自が興味関心をもったことについて課題設定をしている。
 - ▶本時では、図書資料から課題解決に向けて情報を集め、必要だと思う情報をタブレット内の情報カードに入力する。
 - ▶タブレット内にあるテーマごとの共有フォルダに情報カードを提出し、全員で共有できるようにする。
 - ▶本時以降は、情報カードをもとにプレゼンテーション資料にまとめ、発表し合う。
- 本時に関わる情報リテラシー 情報の収集
- 図書館担当者の動き 司書教諭・・・授業構想の提供、学年部との連携や実践へのコーディネート
学校司書・・・各自の課題に関する資料の準備、授業中の選書の個別支援



必要な情報を情報カードに入力している様子

D 2 ブロック (湖東かなび学園・ほっとハート東出雲学園)

- 会場校 東出雲中学校
- 日にち 12月16日(金)
- 学年 2年生
- 教科 国語科
- 単元 いにしえの心を訪ねる 漢詩の風景
- 授業者 教科担当
- 本時の目標
 - ・自分が選んだ漢詩の句や表現について、気に入った理由を的確な表現で相手に伝えることができる。
 - ・漢詩に読まれている情景や心情は今にも通じることを認識し、古典に興味をもつ。
- 本時に関わる情報リテラシー 発表、交流
- 図書館担当者の動き 司書教諭・・・指導構想への助言
学校司書・・・漢詩の資料提供、漢詩資料の掲示

- 本時の流れ
 - ▶本時まで、選んだ漢詩の気に入った表現や句をワークシートにまとめている。
 - ▷気に入った理由をワークシートに書く。
 - ▷気に入った表現や句に囲みや線で目立たせる。
 - ▷グループで発表する、全体で発表する。
 - ▷振り返り



グループで気に入った句について発表し合っている様子

学校司書の活動や気づき 令和4年9月、10月、11月の学校司書業務報告書より

(各校の活動について、学校間で情報交換ができるように学校番号(運営説明資料名簿より)を文末に表記しています。)

●読書支援に関すること

- ・児童たちが考えた図書館キャラクターの入賞者が決定し、表彰を行った。入賞者には3冊貸出券(通常は2冊貸出)を贈呈した。さっそく券を使って本を3冊借りる児童がいたり、応募された作品を見に来る児童も多くいたりし、図書館を利用するきっかけになる取組で良かったと思った。(13)



●学習支援に関すること

- ・4年生の図工「版画」で模様の本を提供した。担当の先生の提案で、模様の本の中に着物の模様についての本も入れて提供した。着物の模様の本は、その後、4年生の国語「くらしの中の和と洋」でも利用した。同じ本を別々の授業で利用することは授業と授業がつながり、子どもの学びをより深いものにできると思う。授業の中で考えたことが、他の授業で生かせるという発見や喜びを感じてもらいたい。毎回できることではないがタイミングが合えばそのように提供したい。(27)
- ・夏休みに図書館活用研修「情報カードを使った調べ学習の進め方」「アニメーション」(講師：司書教諭)を行った。その体験をもとに各学年の授業とリンクした情報活用指導や読書指導が多く取り組まれるようになった。低学年、中学年、高学年のその時期におさえておくスキルがあることやスキルの積み上げの重要性を授業者に伝えることができたからだと思う。授業のねらいや進展状況、各児童の調べ学習の進み具合など、授業者と司書教諭、学校司書が情報共有しながら進めていく授業が増えたことで、指導効果が高くなってきたと感じている。(12)

●司書教諭と学校司書の連携について



- ・ブロック別研修では、各学校司書が工夫していることや課題等について情報交換ができ、有意義な時間となった。また、司書教諭からは、それぞれに意見や感想、提案などを聴くことができた。その中で共通の課題として、図書館の利活用やストーリーテリングなどの時間確保が難しいということがあった。司書教諭と課題点を共有できたので、連携して読書推進活動の工夫と継続により、児童生徒の心がもっと本に向くよう取り組んでいきたいと思った。(43)

●児童生徒の図書館利用様子について

- ・算数で図形の学習をした5年生が、休み時間に星形の面積が知りたいと図書館にやって来た。この時は星形の面積についての資料は渡せなかったが、さまざまな形の面積を求める公式が載った百科事典や4類の算数・数学の本(公式に至るまでの図解での説明や数列や計算の面白さが載っている)を紹介すると興味をもって読んだり、借りたりしていた。普段はあまり利用されないジャンルだが、知りたいことがきっかけになって利用されるようになり良かったと思った。(3)
- ・この秋は、捕まえた虫の育て方や生態を調べに、さまざまな学年の児童が図書館を訪れていた。調べたいことがある時は図書館へという子どもたちの行動は、授業で図書館を活用しているからこそその効果だと感じている。(32)

●資料の管理について

- ・人気の本は小口の黒ずみが目立ってきている。返却された際に点検し、気になる本にはサンドペーパーをかけてみたところ、多少ではあるが改善がみられた。少しでも気持ちよく本を借りてもらえるようにしばらく続けることにした。(33)



小口
(本を開く側)